の後番士の人數は增して一萬人となり、永く元代を通じて存したものである、今此の客失克なる語について考へて見るに蒙古語では箭內學士の說かれたやうに kesik は恩惠・寵愛その他之に類した意味であるが、同樣の語はトルコ語中にも存し、ラドロフ氏の Versuch eines Wörterbuches der Türk-Dialecte に據ると Kudatku Bilik 中のウイグル語で käš- は賞むるの義であり、また Alt. Tel. Leb. Schor. 語の käjik は贈物・恩惠・幸福等の義である、しかしながら此の語は直ちに番直の意なる客失克に相當せしむることは困難である、その職掌から考へても是非とも番をする意味を持つた言葉でなければならぬ。それで蒙古語以外にトルコ語中について之を求めて見るとウイグル語に kiśik, keśik は Wache, kiśiklik は Wächter の義 (Vambéry. Etymologisches Wörterbuch der Turko-Tatarischen Sprachen 109.) Dsch. V. Ad. に käšik は die Wache; der Wachtposten; Ad. に käšikči は der Wächter; V. に der Wachthabende の義がある (Radloff. Versuch eines Wörterbuches der Türk-Dialekte II. 1182). さればウイグル語及びその他のトルコ語でこれが番直・宿衞等の義卽ち祕史に記すると同一の意味に於て用ゐらるゝことは疑ないことである、而して此の語の構成を考へて見ると、明らかに keš+ik の形で、既に Vambéry 氏の說いて居る如く kiś, kis, kiz, giz 卽ち守る (hüten, schützen, bewachen, aufbewahren, verstecken, verheimlichen) の意を有する動詞を云ひ据えて名詞となしたものに外ならぬが、なほ同氏の推察せる如く、ウイグル語の köz (眼)、チャガタイ語の küt- (守る、看守する) 等と相關する語であらう、以上述べた所によると、祕史の客失克卽ち番直なる語は元來トルコ語を傳へたものであることほゞ疑無いと思ふ。

次に土兒合兀惕(トルカウト)卽ち侍衞なる語について考へて見るに、祕史には客失克(ケシク)を直班と譯したるに對して之を散班と譯